



2019.12.07 # 週刊現代 # 医療・健康・食

知られざる「副作用」の恐怖～薬が5種類以上になると命の保証は…

薬が体内にたまると…悲惨な最期

週刊現代 プロフィール

いいね！

f シェア 233

ツイート

B! ブックマーク 4

## 【④薬が体内にたまる】

6種類以上どころか、膨大な薬をありがたがって飲んでしまう人には悲惨な最期が待ち受けるかもしれない。

今年77歳になる奥田謙さん（仮名）は、合計20種類の薬を飲んでいた。

「関節炎のために疼痛治療薬のリリカと鎮痛剤のロキソニン、さらに高血圧の薬のノルバスクやレニベースという薬を処方してもらっていました」

他にも奥田さんは、糖尿病の薬や、利尿剤などを出されていた。おくすり手帳も持っていたが、病院ごとに分けてしまっていた。奥田さんは続ける。

「半年前のことです。朝食後に薬を飲んですぐ、だるさや吐き気を感じました。次第に意識がぐらついて、気付いたら病院にいたのです」

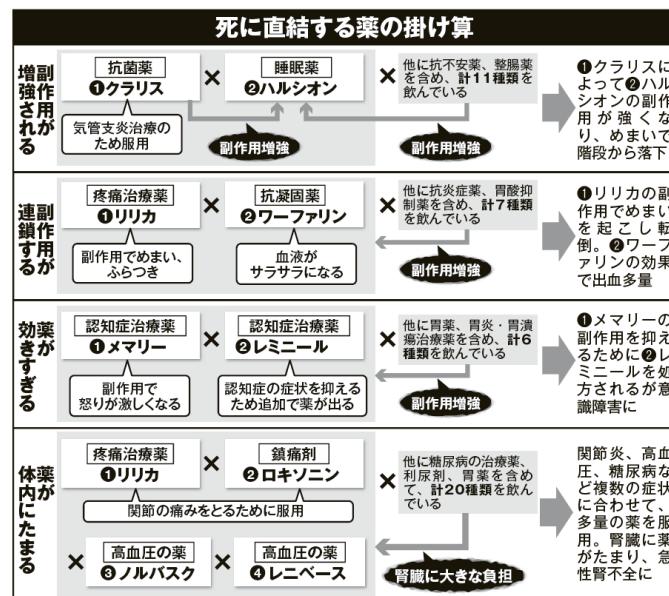
医者の診断は、急性腎不全だった。

多くの薬は腎臓から尿中に排泄されるが、薬が増えれば、腎臓にたまっていく。とくに降圧剤や非ステロイド系の抗炎症薬、抗がん剤は腎臓の働きを悪くしてしまう。その結果、体内からなかなか出でいかない薬が、腎臓の機能を破壊してしまうのだ。

今、病院でもらっている薬が5種類を超える場合、どうすればいいか。

「まずは、なんなく追加で出されている薬を見直すことです。軽い降圧剤や抗コレステロール剤、胃薬など、安心のために出ている薬は、医師にやめたいと相談してみましょう」（医療ガバナンス研究所理事長・上昌広氏）

病院の薬はうまく使えば、劇的に効く。逆に、使い方を間違えれば、身体の機能を大きく狂わせることになる。毎日飲んでいると忘れるがちだが、薬を飲まないのが本来の姿であることを忘れてはならない。



「週刊現代」2019年11月16日号より

**週刊現代** 求む、スクープ!  
あなたの情報をお待ちしています

< 1 2 3

記事をツイート

記事をシェア

B! 記事をブックマーク



固定電話が「巨大なリスク」になっていることに気づいていますか（加谷…）



子供のいない「おふたりさま」夫婦に「相続トラブル」が続出中のワケ…

週刊現代



嘘だろ？ 中性脂肪対策トクホを1日1本続けてみたら



高級食パン・大行列20店を食べ比べてわかった「本当においしい店」（週…）

週刊現代



捨てられた親に「もう一度育てられられた」娘が迎えた残酷な結末（石井…）



二重まぶたになりたい人必見！鈴木奈々さんや篠田麻里子さんも絶賛の「…

エムアンドエム